平新報

發行日毎月三回 五ノ日發行
編輯兼發行印刷人 山野邊庄吉
發行所 福島縣平町二丁目二番地 平新報社
廣告料五號十二字詰一行一回五十錢 場所指定倍增
一部定價金十錢送料五厘

青年日本と青年支那

—自由主義者の觀たる日支關係—

在上海 坂本義孝

◆日本には日本の懊惱がある。此の懊惱に直面して前途に光明を見出し努力するものは、いふまでもなく青年日本である。

◆支那には支那の問題がある。此問題を分拆し將來に希望を持續し精進するものは、固より青年支那であり中國青年である。

◆青年日本には軍閥的侵略的念慮は秋毫もない。中國人の喧稱する『帝國主義』的意識も全然ない。蓋し、青年日本は、驚くべき徹底性と奮闘性とを具備しておる青年日本と青年支那とが諒解し聯繫し握手し抱擁するときに眞の平和も親交も仁義も實現せらるゝのである

◆今や、中國の實情を凝視するに殆んど青年支邦は絶望の境地にある。

◆十六年前に威大なる抱負を以て共和革命を捲起した爾來幾度かの變遷を經て、昨年は國民運動否國民黨運動の猛烈なる擡頭と伸展とを見せつけられた。

◆而して、共產黨と妥協した國民黨は戰勝と共にその一部的目的を到達するや分烈運動を生じ、其分烈運動は殆んど底止する所を知らない狀態である。共產黨に活氣ありしや、國民黨に生氣ありしやの問題は之を別として又何れの黨が實力を有し實權を把握したかは之を別として、分裂運動は其威を逞しくして兩黨の分解が行はれたに止まらず、國民黨自身の解體を來さずんばやまざる慨がある。

◆茲に於て近眼的識者は、その中外人たるを問はず孰れも、中國は救はれず中國は亡びるであらう云々てふ悲觀說を懷くに至つた。一面より見れば、之は尤も千萬である。特に中國に在住する外人は、中國人の及ばさる點を見せつけらるゝ爲に早くも悲觀病に罹るのである。されど悲觀論に傾くにはまだ早い。更に高所に立つて達觀せねばならぬと思ふ。國民運動の潮流は今や此處に偃止せられ彼處に阻止せらるれど、其滔々たる威勢は飽まで奔湍決流してやまぬと思ふ。

◆一面的に側觀すれば、今や國民革命は『遊離的、紛岐的、模糊的』になつてをる而して革命は反革命と混戰中である。最も『馬々虎々的』なる溷沌狀態にある。而して革命の『腐化』や『惡化』やは確に『貪』と『詐』とより生ずる。貪慾と詐術とは革命を一見挫折せしめつゝある。呉稚暉氏は、『胡漢民は陳平にして汪精衛は張良なれど蕭何なきを奈何せん』と嘆じてをる。されど中國人のみが『貪』にして詐であつて外人は然らずといふ事はできぬ。外人も『貪』にして『詐』であるが現今の如き國家生活を運營してをる。個人的能力に於て外人に比し等しかるべきも劣るなき中國人である。國民的能力に於ては法治に代ふるに禮治を以て、獨自文化を創作した中國人である故に問題とする所は、中國人の『能不能』てふ『稱賴』にあらずして、能に關する『程度』に存する。私見を以てすれば、將來に於て中國は東西文化を眞に融合して、『德治と法治』とを巧妙に調和したる獨自文物を完成暢達するものと思ふ。

◆外人より見れば、中國の混亂を看過する能はず、蓋し人道上無辜の民を水火の苦に委して默視することができぬからであるといふ又更に進んで、貿易的利害關係上現狀に委することができぬといふ。然らば是等外人は中國を如何に取扱ふのであるか、一に曰はく、武力干渉を以てすべし、二に曰はく、割據主義を承認し地方的實權者と接洽すべしといふ。而も之を實行すれば二者共に不可能である。不可能なるが故に、唯袖手傍觀するといふ實際的結果を生ずるのみである。

◆中國人側を見るも、武力統一、北伐遂行を主張するものあるかと思へば、『分治合作』とか『分縣自治』とかを高唱するものもある。此二說に隨伴して、無治主義とか人治主義とか、投機主義とか機會主義とかをも强調するものがある。又『敎育救國』『人格救國』を力說する志士仁人もある。

◆更にいふ、一面より中國現況を觀れば、收拾すべからざる混亂狀態にあるのは事實であるが、亦他面には此等の混亂によりて中國の民衆は精練され其の識者は訓練されつゝあるのであり新興民族が名狀し難き苦悶中に生れつつあるのであると。

◆日本には他國に於けると同じく、社會革命により國家を改造せんと欲する偏激主義者もあり、軍國主義により國民を隆盛ならしめんと欲する軍閥主義者もあるが、日本の軍閥が民國の軍閥と「勾結」するが非であるならば、日本の無產過激者と民國のそれとが暗默野合するのも非である、蓋し渠等の聯結は暫時的にして永續的ならず、變則的にして常例的ならざるが爲である

◆而して中日兩國間に眞實の和契を結ぶものは青年日本と青年中國を措て他に之を求むることができぬのである。

◆今や無產過激派も頑迷軍閥派も擧つて中國に向つて夫々畫策しつゝあるであらう。而して青年日本は青年日本の立場から、即ち自由主義者的見解から、此の收拾し難き中國に對して滿腔の誠意を披攊し、中國の爲に計り隣國を扶けねばならぬ。

◆日本の軍國主義者は、自由主義者を夢想者といふであらう。日本の無產過激派は、自由派支持者を資本主義の走狗といふであらう。又中國人は悉く自由論者を日本國家の傀儡であると貶し、日本資本家の代辯者であると黜するであらう。何と非難攻擊されても自由論者は其獨自的立場より、その目標に向つて邁進し進攻し突進せねばならぬ。

◆凡そ、一國の威大なる事は其國民特に其青年の把持し表現する理想主義に存する。日本にはかゝる理想主義ありや或は現實主義のみに捉はれおらざるや、幸にして青年日本は此理想主義を豐かに抱懷するのである茲に日本の生命があり、日本の希望があり、日本の光明があるのである。

◆惱める支那、苦しめる鄰國を扶くるものは誰であらう苦しめる支那を罵倒するは唯卑人の擧である。

◆悶へる支那を利用し其虚に乘せんとするは天道之を假借せぬ。西洋果して霸道なるか、東洋果して王道なるか、歐米諸國の對外宣敎運動は慥に今世の一大偉觀である。たとい往々にして不純分子の混入するあり、又政客に利用せらるゝあるも、本質的に論ずれば、該運動は歐米理想主義の發露であり、體現であり、權化である。

◆東洋の『王道』を實現すべきものは誰か、中日の『仁義』を發揚すべきものは誰か、唯々之れ自由論者たる青年東洋に非ざるか、徒らに『國粹』をかつぎ出すは非に亂りに『革命』を唱ふるも非米國共和を產出せる青年を中國に與へよ。日本維新を成就せる青年を民國に與へよ。之は實に青年日本の叫びである。

東洋道德　夫婦之道〔二〕

松尾淵龍

配偶者の意義

又この配偶の意義に就てみても、男女を同等に見て少しも等差を附してゐない事は明かである。配の意味は、こゝに一つの物があると、その物に密接に結合して扶けて行くもの、といふ事である。故に配は、女子にのみ用ひるものでなければ男子專用のものでもない夫婦何れにも用ふべき文字である。女性は女性の德を以て男性を扶け、男性は男性の德を以て女性を扶け、互に長短を補つて固く結合し、扶け助けて人生の長く嶮しき行路を共にするものを配といふのである。

偶とは、こゝに一つの物があると、これと同一體となつて離るべからざるものゝ事をいふのである。離れて居ては互に用をなす事が出來ない、例へば人の肉體と精神の如きもので、精神は肉體を得て靈妙なる活動を遂げる事が出來、肉體は精神を宿して後完全な能力を得るのである。二物は二にして一、若し離れて互に融合することがなければ共に何の役をもなさぬ。偶とは此の如く、時の如何を問はず處の如何を論せず。對立又は竝立して、影の形に添ふ如く、常に混然と融合結合して同一心となり、我のない境地にあるのをいふのである。これ程徹底した平等觀があるであらうか。皮相の觀察を以て、東洋道德は男尊女卑なりと輕々なる評を下す輩は、速に三省して然るべきである。

男女天稟の差別

夫婦は二人結合して一人となるのであるから、尊卑要不要の別のあり得べからざるのは當然の結果である而してこの平等觀の據て來る源泉は、現代の所謂新しと稱せらるゝ女權家とは大いに相違してゐる。現代の新しがりやの女權家等は、男性も女性も同一の天賦を享有してゐるものであるといふ妄想の元に根原を發して、同權を主張してゐるのである。この主張は、『男女互に獨居して、子孫を增殖する事を得』と自然の法則が改まるまでは、妄念たるを免れない。肉體と精神の關係を悉知する人は、一顧の下に、その過誤を斷言し得るであらう。

人の心の一様ならざるは恰もその面の異るが如しとは、人口に膾炙した平凡の言であるが、此の間の問題を說明して餘りあると思ふ肉體と精神との關係は獨り顏面の構造のみではない。身體全體の形の異れるを觀てもその人の性格は知られるものである。是を以て推す時は、男女に肉體の相違のある事は、同時に精神上に天稟の差のある事を表すものである。男女がその天稟に長短なく、同一の機能を具へてゐるが如く誤信して、社會の實際に實行せんとするものには、男女を問はず共に過れるを悔いるの日が必ず到るであらう唯時日の遲速あるのみである。

而してこゝに、ある特異な一男一女を捉へ來りて云々する偏狹なる說は、公道の前には排斥すべきものであつて、一顧の價値もないものである事を附言して置く

何故に男性は女性を愛するか。又何故に女性は男性を慕ふのであるか。

男性の多く所有する性格は女性が比較的少く持つてゐる。女性の多く有する性格は比較的男性が少く所有してゐる。兩性は互に自己の欲して而して所有しない性格の半面を、相手の中に見出して滿足を感じさせられからである。人生の有終の美果を獲る爲には、必ず二性が互に長短を補足しあはなければならない様に自然の法則が出來てゐるからである。

男女兩性の稟性の長所短所を、具體的に列擧すれば大體次の様になる。

男性は高遠を見る明を備へて足下を見るの明に乏しく女性は卑近を見るに長じて、高遠を見るに短なり

男性は創業の才力に富み舊守の力弱く、女性は舊守の才ありて創業の力弱し。

男性は理智に富み、女性は情熱に富む。

男性は精神的にして、女性は物質的なり。

男性は博愛の性を有し、女性は個人愛の天稟を享く

男性は名譽權勢を第一義とし、物質を第二義となす女性は物質を第一義として名譽權勢を第二義となす。

男性は平等公平なり、女性は差別不公平の性を享く

男性は動にして對外的に長じ、女性は靜にして對內的に長ず。

男性は理想的猪突的にして、持久力弱く、女性は現實的漸進的にして、耐久力强し。

男性は剛强なるも折れ易く、女性は柔軟なるも折れ難し。

男性は放施的、支出的なり。女性は收斂的、節約的なり。

男性は能動的にして、女性は受動的なり。

男性には支配者の才能あり。女性には隨從者の才能あり。

男性は活動して悔を殘し女性は靜止して有終の美を收む。

なほ列記すれば際限がないから大略に留めて置く事にして、其他は以上の事實によつて推定して考へれば自然と了解せらるるであらう

以上の如く、男女はその天稟に於て正反對である。正反對であるが故に互に必要を感じて、相倚り相扶けて進まねばならない事になつてゐるのである。かゝる明白な理由も辨へずに、女性も男性と同一の體力及び神力を有するものとして同一の行動を絕叫する女性があるとせば恰も翼なくして飛ばんと焦るものゝ類である。又男性にして女性の行動をなすことは愧づべき行爲である。

今拾壹日ヨリ日本銀行代理店ヲ引受ケ候ニ付國庫ニ關スル事務ハ一般銀行事務ト共ニ便宜取扱申候
昭和三年七月
株式會社 平銀行

祝創刊滿三年

平町二丁目
履物問屋 三井商店
電話一五六番

平町二丁目
北海屋號
海產乾物問屋 皆川新一商店
電話八〇九番

平町二丁目
藤市號 遠藤市松
電話三〇五番

平町二丁目裏通り
御料理天ぷら 越の家
電話三三〇番

平町三丁目
星チエンストアー支部長 駒木根忠三
電話四二九番

平鎌田町
草野染工場
電話三四八番

平町南町
大森勇
電話二五八番

平町長橋町
土木建築請負業 荒川銀治

平町
醬油釀造元 小野圓次郎

平町
旅館 住吉屋本店
電話一五九番

釀造元 平町
山崎合名會社
電話營業所一〇番 釀造工場二七番

平大工町
多田井笑次郎

平町會
議員一同

シンガミシン會社
平支店販賣部
平町一丁目

平町二丁目
大村屋旅館
大村一郎
電話一七五番

平町二丁目裏通り
小松崎洗張本店
電話七七〇番

平町四丁目
佐藤齒科醫院
電話五〇八番

平町五丁目
磐城建物會社
電話五一八番

平町新川町
佐藤材木店
電話三三五番

外科專門 部長 藤本順 診療開始
產科婦人科 院長 木村寅次郎 從前通り診療
平新川町
木村醫院
電話一六四番

平南町
青木寫眞館
電話四二二番

平町五丁目
山野邊藥局
藥劑師 山野邊東次郎

平町二丁目
なかや洋服店
電話二〇三番

平町二丁目
大一屋荒物店
電話一三番

平町四丁目
關內藥舖
藥劑師 關內榮助
電話四〇番

平一丁目
鷹崎貞衛
電話三五七番

平一丁目
山家メリヤス店
電話六〇五番

平町一丁目
西洋御料理 カフエータヒラ
大沼與之吉
電話六二〇番

平町二丁目
遠藤帽子店
電話七一八番

平藝妓屋組合

飯野村長
伊藤淺之助

內鄉村
村長 野木龜之助

內鄉村
大勝貞治
電話平二五番

內鄉村不動澤朝鮮炭礦
主任 戶部光衛

內鄉村白水
區長 大越卯之助

內鄉村不動澤浪花炭礦
主任 佐藤留藏

平町二丁目
時計洋品商 大谷時計店
電話一九番

平町南町
御料理 大和家
電話一四番

平町南町
御料理蒲燒 松本樓
電話一一三番

平町南町
御料理 玉よし
電話四二六番

土木建築請負業
猪狩菊三郎
平町田町

內鄉村
炭礦用諸材材木商 佐藤三平
電話四三〇番

親切叮嚀技術優秀
產婆 川島トミ
內鄉村綴驛前

磐城炭礦會社內鄉職工職員合宿
田所恒夫

內鄉村綴驛前
御料理旅館 常陸館

內鄉村藤棚
吳服太物 綴柏屋商店
佐藤久太郎

事業と人物 （三）

シンガーミシン 平支店の發展

平町壹丁目シンガーミシン會社平支店主任石川平之助氏は茨城縣出身にして平町に支店開業以來拾年開業常時は擴張の方法頗る困難であつたが氏は能く此の間に處して至誠格勤一日も倦まず契約者の勸誘に於いても社員を督勵し自ら折衝し內容を充實し堅實味を發揮し遂に今日の大を致するに至れりといふ、これ時勢の要求然らしめたとは申せ一に氏の手腕力量の賜であらねばならぬ。內には生徒約三十名にして、教授に付いては少からず努力をされ、外には社員六名を督して月賦販賣等に力めつゝあつて不斷の活動を續け內外の信用を博して居る。

不況に直面し展開良しきをなす

小田炭礦

今や常磐各炭鑛界不況の折から只石城郡好間村に於ける小田炭鑛の發展振りは實に目覺ましいと云はざるを得ぬ、社長萩原新八氏並びに坑長山野邊氏組長長橋氏始めとして五名の組長警務係の人々は此の不況に直面して勇敢に切り拔ける可く從業員を督勵して飽く迄屈せず鋭意同礦の發展に努力して居られる。從業員も亦幹部の意を體して良く服し會計なども のびく〳〵ながら も爭議の勃發なども見ず八百の從業員が日夜の奮鬪は日に出炭の成績を增し今や一日七八百貫の採炭高を生み尙昨年出來せる新抗も相當の出來あり、殊に炭の性質は良好と有る是れ實に幹部始め從業員が平素の心掛の賜ものと云はねばならぬ之に勢ひを得た同抗では敍々上下一身同体となり、奮鬪努力專心同抗の發展に勇猛邁進して居る因みは抗長山野邊氏は本郡泉村出身にして斯界には明るく又從業員の組織も直轄にして組長制度にて六名の組長其の下に數名の警務係を網羅して實に職務の配置などは當を得たものである從業員家族を合ると一家三名と見て約三千名の一大家族をなして居る。思ふに今秋御大典に當り景氣は徐々に好轉の氣運に向ひつゝある際同抗の如く上下全力を傾注しての奮鬪は必ずや好結果を齎らすものと一般より期待されて居る。

人情の人杉山氏を主任に戴く

不動澤炭礦

異數の發展振り

內鄉村不動澤杉山炭礦主任杉山今朝吉氏は、炭礦界の立志傳中の人として知られ多年終始一貫絕ざる奮鬪を續けて今日の大をなしたのであつて設備の改善と鑛區の增大を圖り異數の發展を遂げたことは、決して過然のものではないのである、炭質から云へば火力熾烈で燃燒し易く灰分少なく粘張力があるので遠く中央に迄好評を博して居る。氏が今日の大を爲した裏面には苦心奮鬪今日の地盤を築上した位であるから、從業員並に坑夫に至る迄待遇等には頗る人情味あるものがあるその一例を示せば、コマル坑夫等に對しても金錢を融通し返金等をせまるようなことなく公共事業にも多大の奉仕を惜まぬといふ、人情紙の如く薄い今日この頃氏の德義には全敬服を以つて酬えられて居る、氏は同村に於ける在軍副分會長として青年の指導農村の振興方面に心しつゝありと云ふ

話耳目

◆本紙連載の磐銀內容記事に對して兎や角私憤のための筆である等と申す人があるがそは曲解も甚しいものである、事實を事實として太陽が東から出て西に入るとかいて居るまで破邪顯正の筆硯と信じて居り決して毒筆でなく公の問題批判である、本紙記事が私情である等と難ずる人それこそ私情を以つての批判ではあるまいか

◆去る十日夜平劇場に於ける會場借主は田町の宇佐美友二郎氏の由で宣傳ビラ配布の件や何々とブル化せるも何も推して知るべきではないか、物事は眞相を確めて批判すべきである。

◆本郡民政黨選出縣會議員野崎滿藏氏が去る十日夜料亭ときわに例の財界安定促進會『目下解散して居るとかの噂さであるが』を招いて御馳走したが、これ何のための招待か、筆者判斷に苦しむものがある。氏は平銀行の取引者で同銀には好意を持つ人である、然らば平銀の聲明書を難じたる同會否な平銀に好意を持たざる同會を平銀のための緩和策ならずやと世人は言ふ。聞く說くは何等の意味なく促進會でなく旬刊の意味であるとか然らば本社を何が故に除外せりや、出席の有無は別問題で案內するなら公平に差別を附すべきにあらず縣議、町議の要職にある氏として甚だ偏したる行爲と申さねばならずこれで綏和諒解したと思ふ野崎氏の心や憫笑せざるを得ぬ。因みに同招待會には大和田鈴木の兩氏は都合上欠席せりといふ。

◆次に又去る十一日夜七十七銀行平支店では谷口に在平日刊通信記者を招いて諒解を求めた、新支配人山田勇太郎氏の挨拶でもなき由何のためであらふ？時節柄諒解が流行するものだ。これ又旬刊を除外した、かつて平銀にて末廣に於て旬刊を除外したるため旬刊側から不公平を叫ばれて問題となつた事がある、警察、役場は勿論すべての會に旬刊に案內せぬを當例として居る樣である、この差別的待遇が意志の疎通を欠く事が多い、日刊は迅速なる通信報道を以つてすれば旬刊は正確なる批判である、此の意味に於て筆者は忌彈なき嚴正批判に向つての直進を止めたくない。

◆○○○氏は今以つて昨年○○との筆戰は異性を專有せんがためであると言ふその曲解たるやアきれざるを得ぬ、要は安藤信義氏の心證に問はば事實これを證せんかなである。

◆山崎與三郎氏が全財產を合名會社にせりと世間噂サするも筆者調査するに合名會社にせるは先年二十萬で今回十萬圓合せて參拾萬圓たるは磐城之實業近刊去る十日附二面に明かに裏書して居る、山崎氏の全財產まさか、三十萬圓であるまいまして合名會社には元の塩屋吳服店も入つて居る、再び云ふ何事も眞相を確めて批判せよと。

◆近日平銀の株の賣買が盛んに行はるゝを耳にするはこは加藤丈夫氏が同銀株壹千株を持たんとしてブロカーに依賴して買ひ集めつゝあるに依りこの噂があるとかのウワサである、加藤氏が何のため千株所有を希むや筆者その眞意を知らざるも事實はかくの如くで眞相調査以上の如し。

◆井上貞治郎氏は磐銀は不當相殺出來得べきものにあらずと釋明して居るが佐藤藤助氏と山崎庫太郎氏との關係又は植田庭朔の○○○○を知つての事かと借問したくなる、記者としては公私混同せず嚴正なる批判をしてこそ新聞記者としての生き替いがある、やがて筆者の眞意が判る時あるべく暫らく筆者をして心の外を步ましめざらん事を伏して懇願するものである、今日あつて明日なきは吾人の生命正義に立脚して直進してこそ生き替あるもの賢兄この觀、この度なきや。

◆すべてに公平なる批判と報導をなしつゝあるは磐城時報である、去る十日平劇塲の演說會の眞相は同紙と磐島新聞所載が眞相に近き樣である。

◆磐城の實業は近刊に中野甲藏氏を盛んにほめて端山正男氏を批判する、同社はかつて前者を難じたものである。

◆實業の大和田氏、立憲の小泉氏は共に本紙の磐銀批判に共鳴して居るが口と筆とは異にせねばならぬと見える。

◆平銀では今回日銀代理引受けに際し公平に在平各新聞に廣告を自發的に出した めづらしい事で覺るの遲きあるも覺らぬよりは良い。

◆サンザン腹筆者をダシにして釜屋や其他へ出入する○○は近來筆者と○○が合はぬからとて本紙と東朝等と比較して本紙を難じて居る、先づ過去に立ち返つて三思せよ、過去なくして現在なく、未來なし、易理に何と說く、利害を以つて結交離反すとか吾人は舊義を踏んで迄榮達を希まない。

休業磐銀預金者大會から

檢束暴行されたといふ

山野邊辯護士はかく語る

去る拾日午後六時半より平劇塲に於て新黨組織準備會主催の下に磐城銀行休業に關する批判演說會があつた聽衆約五百名平署では萬一の備へに非番巡查を召集して警戒の正私服三十余名を以つて嚴重なる取締をした辯士數名立つて磐銀を攻擊するや、要點にふれずして注意から中止となり最後に預金者大會を開催され、決議文を作製して直ちに三名の委員が磐銀におしかける可く決議するや突如解散を命せられたので其折山野邊義政氏立つて理由を質問せんとするや發言の時間を與へず檢束の浮身を見、町會議員吉田五平氏も又側枝を食つて檢束され、聽衆總立ちとなり塲內は上を下への大混亂に陷り聽衆は警官の爲退塲を命せられ否たゝき出され警官橫暴の聲漲り悲喜劇は此處彼處に現はれて辯護士安藤琢磨氏などもそばついを食つて素足で署へ引かるゝなど活寫劇そのまゝであつた。當夜の眞相と其後の感想につき被害者たる山野邊辯護士の談を聞くに

去る十日午後六時頃平劇塲に於て磐銀預金者大會を開催する旨自動車の振れを聞いて、自分は辯護士として預金者の聲を知つて置く事は現に、委任を受け居る預金事件の爲にもと八時頃同塲に參つた、當時二三辯士の演說があつたが物々しい警官から注意、中止の連發をされて論旨も一向知る事を得ず聽衆亦少しも氣勢上らなかつた、九時頃預金者大會が同塲に開かれ協議をなし委員三名を以つて交涉する事としたるも突如解散の命下るや聽衆の一人たる私は『解散の理由』はと寧ろに立つた所伊藤警部補は直ちに席より進みより『あいつ』を檢束しろ〳〵と呼ぶや正私警官十數名壇上より躍り出で私を有無を言はせず兩手胸ぐら後えり等を振り檢束歐打し殊に暗い所へ參るや其暴行は酷く劇場の風呂場へつゝき落し財布を、下駄をといふも財布もくそもあるかと遂に平署迄で拉致したのである、一方私を釋明せんと山野邊辯護士だと叫んだ安藤辯護士及び吉田吾平氏は何れも同樣檢束された、その冷靜なる聽衆の中へ、あいつを檢束しろと躍り出づる有樣といひ不法に暴行を加ふる有樣は全く一大暴力團の暴動としか思はれなかつた

而して其の後の彼等の報告及び主張は何れも自己利益の爲め揑造して居るには驚いた

檢束とは拉致する事、暴行を加ふる事と思つて居る彼等の思想！事實を平氣で揑造する彼等の惡德は不問に出來得ぬ重大問題である、決して私一個の問題ではないのである

同窓會報 （三）

三年度各種學校入學者

▲東京高等師範學校(二七)回大和田道隆　石川一郎

▲本縣師範學校二部(二六)藤田力　渡邊淸之助　小松隆(二七)永井昌次　田中重三　雫石太郎　鈴木三郎　志賀昇　江尻浩　野木卓　(二八)渡邊　片寄正義(二八)西山榮　草野光司　彌平　木田芳重

▲仙臺高等工業學校(二八)大森輝　淺井義治　藤井正信

▲橫濱高等工業學校(仝)笹井精二

▲東京高等工藝學校(二六)川上保夫

▲橫濱高等商業學校長瀨悌六(仝)(二八)蛭田睦平

▲神戶高等商業學校(二八)鈴木信道

▲米澤高等工業學校(二六)渡邊淸之助

▲美術學校(二七)石川一郎　金成勇夫　(二八)富岡馨

▲第一高等學校(二八)鈴木竹次郎

▲第二高等學校(二六)沼田一夫　(二七)桐谷邦男　草野悟郎

▲水戶高等學校(二七)高木藤太郎　(二八)中野喜一　鈴木直

▲弘前高等學校(二六)鈴木義忠　遂來信男　(二八)宇佐神正康　四年終了木幡英男

▲新潟高等學校(二七)齋藤貞雄

▲靜岡高等學校(二六)大和田忠良　宮川知典

▲千葉醫科大學藥學專門部(二八)鈴木新右エ門

▲宇都宮高等農林學校(二八)櫛田幸三郎　助川一夫

▲東北學院(二八)石堂輝雄　菅原勉

▲豐島師範學校二部(二七)佐藤一　(二八)木村榮

▲靑山師範學校二部(二八)安永安成　中田肇

▲東京市敎員講習所(二六)高木隆四郎　(二七)佐々木直

▲東京外國語學校(二八)馬上武義

▲法政大學豫科(二七)新妻晃　鳥海榮一　四年終了(二五)田部井兵治

▲早稻田大學(二八)木田武男　高等師範部(二六)谷川正太郎　(二七)石井保武

▲明治大學(二六)小林二四郎　(二七)大平進　(二八)市井茂　志賀重慶

▲國學院大學豫科(二六)長谷川叶　(二七)三浦辛雄　高等師範部(二八)佐藤剛

▲慶應大學豫科(二八)鈴木隆枝

▲拓殖大學(二八)岡田隆廣　村山林一　花園徹

▲農業大學(二八)鈴木榮一

▲東京齒科醫學專門學校(二四)合津泰三

▲東京高等商船學校(二七)淸見三郎

▲水產講習所(二七)大須賀四郎

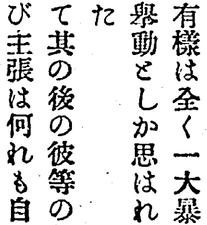
▲第一臨時教員養成所(二七)鷹岡登　(二八)齋藤賴母

右を學校別に數を見れば左の如く

▲高等師範及ビ臨時教員養成所四▲福島師範二部一五▲高等工業學校六▲高等商船學校一▲高等商業學校三▲美術學校一▲高等學校一四▲藥學專門學校三▲高等農林學校二▲東北學院二▲他府縣師範二部及ビ敎員講習所六▲外國語學校一▲法政大學三▲早稻田大學三▲明治大學四▲國學院大學三▲慶應大學一▲拓殖大學三▲農業大學一▲齒科醫學專門學校一▲水產講習所一▲計七八

因みに本調査は磐中校に於て直接或は間接に知り得たる者のみを記載したるものなれば記入洩れも相當あらんと。

◆去る拾二日の午前新田街は橘家にて口爭ふ



聲『それはアタイがケサ○店から持つ來たものョ』かくいふ聲の主は花香裙でそのケサに力コブを入れる事

◆今回叶家へ出た妓は三代吉と名乘る姐さんで元久本でいく子といふ東京で○○者であつたが今回歸り咲きは久し振りとある。◆暫らく○○○院の別莊住ひして居つた仲家の勘平過般より久方振りの營業開始とあつて元の御客は忘れてはせるか、街路そゞろ歩きの宣傳は堂に入つたもの、身が敎育者の地位に在りながら……と憤慨する處大分裏切者の薄情をセメる所ジュンなとこがある。さもあるべしこの妓例の湖月の元壽美藏の妹で藝者としては小學校○年生だから。◆品澤の小金ゴリラ化して狂犬となる……これも陽氣の加減であらふテ。◆タチバナャのカノ子は小名濱スマャ抱ひチン子の妹と思ひきやエルダーシスターなそうであると。◆榮家のカツ子と橘家のチャラ子は來年は一本になる相で、カンザシをソロ〳〵雛になつて水々しい夏向きの着物が欲しがるゲナ

◆銘酒の名は知つても菓子の名は知るもの尠からふと○○さんのハナシだがなる程、松月自慢の時節もので鹿の子、最中……と次は土羅燒、小倉草紙、求肥、黄味時雨、錦玉となると益々判らなくなるが一つ二錢三錢四錢だ、藝者の名を覺えるよりは安いよ。

祝創刊滿三年

內鄉村藤棚
吳服太物商
永井茂次郎

內鄉村綴驛前
產婆
黑木ハル

植田町
植田水力電氣株式會社
社長 金成通

植田町
町會議員
大平千秋

植田町
淸酒稻妻釀造元
古川酒造店
電話一六番

植田町
磐城無盡商會
會長 小宅嘉久治

植田町
鈴藤商會

植田町
山田屋旅館
電話八番

植田町
喜多野屋旅館

小名濱町
料理旅館
新米
電話八番

小名濱町
藝妓置屋
若竹
電話二五番

四ツ倉町
四ツ倉銀行
會社組合

平町南町
疊商
岡田政次郎
電話五五七番

高久村役場
村長 鈴木喜太郎
助役 本馬武
收入役 箱崎豊
書記 藁谷明

鹿島村
村長 荒川忠治
助役 新妻賛雄

豐間回春園
園長 川井重之

平二町目谷口通り
三井自動車部
電話八番『呼出』

平町公私立學校長懇和會

平町四丁目
柴田書店
電話二三四番

平町四丁目
伊勢屋商店
阿部唯次郎
電話四十五番

平町四丁目
質商
三井富吉

平町仲町
萬洗張
小松崎支店

平町鍛冶町
クリーニング
小松西洋洗濯所

平町鍛冶町
吉件自動車部
電話二二五番

平町紺屋町
御料理
炭屋旅館
電話一三八番

平新田町
御料理
のんき
電話四六一番

平町鎌田町
岡田牛乳店
岡田治作
電話五一一番

平町仲田町
藝娼妓酌婦周旋
岡田屋
永井安太郎
電話七三七番

X光線科

平町南町
電話一二九番

平町田町
高久病院
電話五一三番

內科、小兒科、皮膚科
藤沼醫院
平町紺屋町
電話五〇七番

植田町
森合齒科醫院
本町
森合芳男

內科外科一般診療
片岡醫院
片岡鎌三郎
湯本町驛前

湯本溫泉旅館
松柏館
電話五番